

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔1〕 特色ある学校づくりの推進	＊富岡東としてのオンリーワン教育の実現  ＊自立をめざす視点、共生をめざす視点、個性を重視する視点からの生徒の育成  ＊伝統の継承と新たなアイデンティティの構築	<b>評価指標</b> ○県下で3校目の併設型の県立中学校として、その使命を果たし独自の校風を築く。 ○生徒一人ひとりを総合的に理解し、その能力と個性を最大限に活かし伸ばす教育を推進する。 ○次代を担うリーダーとしての資質を持ち、仲間と協力し共生できる生徒を育てる。 ○学校生活における、すべての教育活動の充実と深化を図り、伝統を重んじる校風を育てる。	<b>評価指標による達成度</b> ・〈保護者アンケート〉学校は、生徒の学力を伸ばす学習指導ができています 86.3% (昨年度比 0.6ポイントDW) <b>B</b> ・〈保護者アンケート〉学校は、適切な体験活動ができています 95.7% (昨年度比 2.1ポイントDW) <b>B</b> ・〈保護者アンケート〉学校は、生徒間の良好な仲間づくりができています 86.9% (昨年度比 4.4ポイントDW) <b>B</b> ・平成28年度入学者選抜志願者 186名 (昨年度比 56名減) <b>B</b>	<b>総合評価</b> (評定)  <b>B</b>  (所見) ・開校6年目を迎え、学習指導、部活動、体験活動、生活指導など、様々な面で「富東中スタイル」が確立した。また、入学志願者数がやや減少したが、保護者や地域社会から一定の評価が得られていると受け止めている。  ・開校当初から取り組んでいる「朝・夕の富東タイム」やRRC、また、環境学習・人権学習を中心とした社会貢献プロジェクトやキャリア教育も進展し、富東中の学校づくりが計画に沿って着実に推進できている。  ・国際交流の取り組みが進展し、アルフレッド・ディーキン校との交流(オーストラリア研修)などが、生徒・保護者から高く評価されている。  ・中高教職員の連帯感や学校としての一体感が高まり、中高それぞれの教育活動に対する理解も一層深まった。	・開校6年目を迎えて、着実に富岡東中学校の校風が培われてきていると感じています。その校風とは、国際人としての資質の高さにあると思っています。国際人とは、日本人としての気高さであり、多様性を受け入れる柔軟な人格であると思っています。このような校風の更なる成長を願っています。評定BをAとなるように。 ・多感な年齢でグローバルな視野を持つことは非常にいいことである。滞在は短期間であるが、それぞれの異国風土を肌で感じることは、キャリアを積み重ねる中で重要な要素の一つと言える。しかしながら、その後の継続的な交流(ホストファミリー等)は、個々に委ねられている。今後は、学校がサポートし、様々な手法を使って持続可能な環境を確立することが必要ではないか。例えば、オーストラリアとの時差は少なく、インターネットを利用してリアルタイムな交流を展開する。	<b>&lt;課題&gt;</b> 県下で3校目の併設型の県立中学校として、特色ある学校づくりをさらに推進していく。  <b>&lt;方策&gt;</b> ○中高の交流をさらに充実させ、中高一貫校であるメリットを生かした魅力的な教育活動を推進していく。  ○オーストラリアの姉妹校との国際交流をさらに計画的に推進し、さまざまな形で発信する。  ○子どもたちの将来の夢の創造につながるように、講演会やワークショップなど、キャリア教育の取り組みをさらに推進する。  ○「富東タイム」について、活動の幅を広げるなど、さらに充実した取組となるように努める。  ○中高一貫教育校でなければ果たし得ない特色を、それぞれの分掌で出し合う。
		<b>活動計画</b> ・国際交流の取り組みを、計画的に推進し、海外語学研修を充実させる。  ・子どもたちの将来の夢の創造につながるように、キャリア教育の取り組みを推進する。  ・各種学校行事を充実し、良き伝統が先輩から後輩へ受け継がれるよう、生徒会を中心に活動させる。  ・制服を美しく着る、さわやかな挨拶、奉仕精神など、本校の伝統的美質を伝える指導をする。  ・総合学習の時間を中心に、自らの個性を見つめ、自分の進路や人生を切り拓く視点を持たせる。  ・現行の良さを残しつつできるだけ多くの新しい意見も採り入れ、より良い教育環境を目指す。	<b>活動計画による実施状況</b> ・本校の姉妹校であるオーストラリアのアルフレッド・ディーキン・ハイスクールとの交流を継続し、30名の生徒がオーストラリアを訪れ、ホームステイ等を行って交流を深めた。  ・「夢をえがく大学訪問」や職場体験学習、ESDやリサーチ&レポートなどの実施が、生徒の将来の夢の創造につながった。  ・富東祭などで生徒会が自主的に活動し、行事を成功に導くとともに、良き伝統が先輩から後輩へ受け継がれた。  ・制服の美しい着こなし、さわやかな挨拶など、富岡東の伝統的な美質が中学生にも定着した。  ・総合学習では、環境問題や人権問題について有意義な学習ができた。またその成果を発信できた。  ・各行事の実施には教職員の意見を反映させ、行事後のアンケート等も実施した。			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔2〕 多様なニーズと地域の信頼に応え、地域と共生する学校づくりの推進	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 学校評価制度の活用と学校の活性化</li> <li>* 教師と生徒、生徒相互そして教師相互の温かい人間関係の構築</li> <li>* ボランティア活動の推進</li> <li>* ホームページのさらなる充実</li> </ul>	<p><b>評価指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校評議員会・関係者評価委員会を開催して教育活動の改善を図る。</li> <li>○ホームページを月2回以上更新する。</li> <li>○学年だよりを各学年で年間8回以上発行する。</li> <li>○阿南市内の小中学校・教育機関との連携を図る。</li> <li>○PTA組織を活性化し、各専門部の活動を充実させる。</li> </ul>	<p><b>評価指標による達成度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・1月末までにホームページを21回更新した。 B</li> <li>・学年だよりを、年間に1年生11回、2年生11回、3年生11回発行した。 B</li> <li>・〈保護者アンケート〉学校は、学校の様子を、学校・学年だよりやホームページ等で適切に伝えている86.5%(昨年度比4.8ポイントDW) B</li> <li>・〈保護者アンケート〉学校は、保護者と協力して教育活動を行っている。86.5%(昨年度比2.7ポイントUP) B</li> </ul>	<p><b>総合評価</b> (評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・市中教研の授業研究会に参加するなど、阿南市の各学校や教育機関との連携が深まっている。</li> <li>・開校6年目を迎えてPTA活動も組織体制が確立するとともに活動が充実し、保護者間の連携、また地域との連携がより一層深まった。</li> <li>・アンケート調査で、「学校は学校行事や授業参観等、保護者が参加できる機会を適切に設けている」と回答した保護者が94.6%と高い数値を示すなど、保護者からの理解と協力を得ながら教育活動を推進することができた。</li> <li>・アンケート調査で、「学校には子どものことを相談しやすい雰囲気がある」と回答した保護者が、80.0%(昨年度比0.4ポイントDW)と微減した点は今後の課題である。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・まず開かれた学校とは？まず教職員の方々が地域に出て行くことではないかと思っています。私の経験では、一度も学校へ行ったことのない地域の住民でも、その学校の変化や取組を見ている方がいると思っています。これが地域だと思っています。それだけ学校は地域の宝であり関心事であるからだと思います。</li> <li>・生徒は学校の顔であると思います。何度が学校へ伺う度に生徒の皆さんの気持ちの良い挨拶に触れてうれしく思っています。継続をお願いします。</li> <li>・私は退職後、地域の方々とボランティア活動から様々な体験や感動をいただいています。今、そのボランティア活動の種まきとして、地域の小中学生とともに活動を展開しています。富東中の生徒さんの参加も年々多くななり、やりがいを感じています。これから地域に住む大人として、児童・生徒の皆さんへボランティアの楽しさを伝えていければと思っています。</li> <li>・県立である特性を生かし、広域からの通学をメリットと捉えてその地域出身の生徒から生の声を発信し、それぞれの地域が抱える問題点などを学校で話し合い、その地域にとって必要なことを共通理解して生徒たちでできることを実践する。</li> </ul>	<p>&lt;課題&gt;</p> <p>地域に開かれた学校づくりをさらに推進し、保護者との連携をよりいっそう深める。</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○入学者募集説明会等の広報活動をいっそう充実させるとともに、広報活動の実施方法を工夫する。</li> <li>○生徒・保護者とのコミュニケーションを深め、特に長期休業中の個人面談を充実させるなど、相談しやすい雰囲気作りに努める。</li> <li>○より充実した活動ができるようPTA組織のあり方について検討する。</li> <li>○公開授業など、地域との連携・交流の取り組みをいっそう充実させ、積極的な広報に努める。</li> </ul>
		<p><b>活動計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域の教育力を活用するため、学校運営について、有識者から意見を聞き、学校運営に反映する。</li> <li>・生徒会役員等を中心に地域の様々なボランティア活動等に参加し地域社会との交流を進める。</li> <li>・阿南市中学校教育研究会等の教職員研修組織に積極的に参加する。</li> <li>・生徒・保護者とのコミュニケーションを深め、特に長期休業中の三者面談を充実させる。</li> <li>・阿南市PTA連合会の活動に積極的に参加する。</li> <li>・富東祭・公開授業等の公開行事を積極的に開催し、効果的に広報する。</li> <li>・ホームページを定期的に更新し、学校行事や部活動の状況等学校の取組を発信する。</li> <li>・入学者募集説明会の開催や学校案内の配布により、小学生や保護者に対する広報をより効果的に行う。</li> </ul>	<p><b>活動計画による実施状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・学校評議員会を開催し、学校評議員や関係者の意見を学校運営に反映させた。</li> <li>・社会貢献プロジェクトの一環として、3年生が「持続可能な社会の構築」を目指したまちづくりについて研究し、とくしま環境学習フォーラムで発表した。</li> <li>・各教科等で阿南市中教研に参加するとともに、阿南市中学校長会研究協議会等を本校で開催した。</li> <li>・PTA総会時に学年懇談を実施した。また夏季休業中と冬期休業中に個人懇談(三者面談)を実施した。</li> <li>・市P連の活動に積極的に参加し、市P連球技大会のバレーボール部門で、5年連続となるブロック優勝を果たした。</li> <li>・富東祭・オープンスクールを実施し、地域の方々に本校の教育活動を公開した。</li> <li>・学校行事や部活動等の学校生活、また、PTA活動や入学希望者への案内等について発信した。</li> <li>・入学者募集説明会を10月に開催し、約500名の参加があった。また、県南地域の各小学校を訪問し、本校の教育活動等について広報した。</li> </ul>			

総括評価表

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔3〕生徒の自主性の基盤向上に向けた育成力の強化	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 生徒が意欲的に取り組む授業の創造と、生徒の確かな学力の育成</li> <li>* 指導内容の精選と指導方法の工夫改善</li> <li>* 自ら考え行動し解決できる資質や能力の育成</li> </ul>	<p><b>評価指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 研究授業（大研）を年間2回実施する。</li> <li>○ 相互授業参観を年間1回以上実施する。</li> <li>○ 学習意欲が十分にある生徒90%以上。</li> <li>○ 授業に積極的に取り組む生徒90%以上。</li> <li>○ 家庭での平均学習時間1日2時間以上の生徒80%以上。</li> </ul>	<p><b>評価指標による達成度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 高校と合同で校内研究授業を年間3回実施した。 B</li> <li>・ 相互授業参観をすべての教科担当が実施した。 B</li> <li>・ &lt;生徒アンケート&gt;学習意欲が高まっている生徒77.2% (3.2ポイントUP) B</li> <li>・ &lt;生徒アンケート&gt;授業に積極的に取り組んでいる生徒92.4% (5.4ポイントUP) B</li> <li>・ &lt;生徒アンケート&gt;家庭で2時間以上学習している生徒62.1% (17.6ポイントUP) B</li> </ul>	<p><b>総合評価</b> (評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教科の学習指導に関しては、学習意欲や学力向上について生徒アンケートの結果が昨年度と比較して向上しており、今後も生徒が自主的に学習に取り組む指導をめざしたい。</li> <li>・ 研究授業など教員の指導力向上については、中高全体で取り組んでいる。</li> <li>・ 理数研究部の研究が昨年引き続き県知事賞を受賞した。また、富東タイムの活動成果として、英語によるコミュニケーション能力も着実に向上しており、本校のめざす教育の特色づくりを進めることができた。</li> <li>・ 家庭学習の習慣については、昨年度に引き続き重点課題として取り組んだ。アンケート結果に表れた数値は、目標値には到達しなかったが、一定の向上が見られたので、今後も生徒の学力差に対応したきめ細かな指導に努めたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎学力の定着は、これからの国際社会人として我が国を担う東中学校の最重要課題だと思えます。そのためにも、本校を選び選ばれて入学してきた生徒の個性や夢や希望に寄り添う先生方に期待するところが多いと思っています。ある私の近しい生徒は、1年生の1学期に「君は進路を間違っている」的なことを告げられ、大きなショックを受けたことがありました。どうか、生徒の多様性を期待して、一人一人の長所と個性を受け止めて、基礎学力の定着と人間形成の育成をお願いいたします。</li> <li>・ 学力の向上を目指して長期的プランを立て、現在実施している富東タイムやRRCを有効に活用し、生徒自身がそれぞれの目標を具体的に設定し、その達成度や不十分な点が容易に分かると、自発的に改善し更なる向上を目指すのではないかと。その習慣が身につけば自然と成長する。</li> </ul>	<p>&lt;課題&gt;</p> <p>すべての生徒が高い志と強い意欲を持ち、楽しく学ぶ教育活動を充実させる。</p> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 中高の教員による研究授業等の校内研修を継続し、さらなる指導力の向上をめざす。</li> <li>○ 本校の実態に応じた、学ぶ意欲の向上につながる評価のあり方について検討する。</li> <li>○ 支援が必要な者について、個別指導をさらに充実させるとともに、自ら学び分らないところは質問する態度を育てる。</li> <li>○ 生活実態調査や学習状況調査を効果的に実施し、調査結果をもとに指導の充実を図る。</li> </ul>
		<p><b>活動計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究授業・公開授業・外部講師招聘による教員研修、授業評価アンケート等を実施し、指導力の向上を図る。</li> <li>・ 学力向上検討委員会において、生徒の学力向上を図る授業の展開や評価のあり方等を検討する。</li> <li>・ 「富東タイム」について、さらに充実した取組となるように努める。</li> <li>・ RRCの実施や具体的な学習目標の設定により、学習意欲の向上を図り、分からないところは質問する態度を育てる。</li> <li>・ 学習内容が定着していない生徒に対しては、テスト前や放課後の個別指導を実施する。</li> <li>・ 生活実態調査や学習状況実態調査を効果的に実施する。</li> <li>・ 教科担任は計画的・効果的に課題を出し、ホームルーム担任は学習記録表を提出させる等、家庭学習習慣が定着するように努める。</li> </ul>	<p><b>活動計画による実施状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 県教委の学校訪問時に、英語・総合の研究授業を実施するなど、各学期に1回ずつ研究授業を実施することが定着した。</li> <li>・ 学力向上検討委員会が作成した「学力・学習状況改善プラン」に基づいて学習指導の改善を行った。</li> <li>・ 朝の富東タイムでは短歌・俳句の創作を中心に、また、夕の富東タイムではNHK基礎英語を中心に取り組み、漢字検定や英語検定の多数合格など、着実な成果があった。</li> <li>・ 生徒アンケートで、RRCを学力向上に役立てている生徒が81.4% (0.9ポイントUP)であった。</li> <li>・ 定期テスト前には放課後質問教室を実施した。また、再テストを実施して学習内容の確実な定着を図った。</li> <li>・ 学習状況実態調査を実施して、生徒の学習時間やテレビ・ゲームにあてる時間を調査し指導に役立てた。</li> <li>・ 学級担任と教科担任が連携して、家庭学習記録表の作成等の指導に取り組んだ結果、家庭学習を1日2時間以上行っている生徒の割合が62.1% (17.6ポイントUP)と、目標達成には至らなかったが一定の向上が見られた。</li> </ul>			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔4〕 中高一貫教育の円滑な実施	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 中高教員が連携した計画的継続的な指導計画を作成</li> <li>* 開かれた学校づくりの推進</li> <li>* 心のふれあう校風の樹立</li> </ul>	<p><b>評価指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○中学生と高校生の交流活動を、年間延べ10日間以上実施する。</li> <li>○中高教員によるTT指導を、週10時間以上実施する。</li> <li>○中高連携授業研究会を年間3回以上実施する。</li> <li>○中高の教員が一体となり、中高一貫の教育課程について検討する。</li> </ul>	<p><b>評価指標による達成度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富東祭・生徒総会など、中高合同の教育活動をのべ12日実施した。 B</li> <li>・全学年で保体を、3年生は英語・数学・保体で、中高教員によるTT指導・習熟度別指導を実施した B</li> <li>・相互授業参観を中高合同で実施した。 B</li> <li>・中高一貫教育推進検討会を開催し、中高一貫教育の特色を生かした教科指導のあり方について検討した。 B</li> <li>・〈生徒アンケート〉高校生と学校生活や行事を共にすることは、自分にとってプラスになっていると感じている生徒82.5%(昨年度比1.6ポイントUP) B</li> </ul>	<p><b>総合評価</b> (評定)</p> <p><b>B</b></p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・中学校の1期生が高校3年生となり、中高一貫校としての形が完成する中で、学校行事や部活動など、中高合同の教育活動の実施が定着した。</li> <li>・教職員の指導体制や研究・研修体制についても中高の共通理解のもと、一体的な運営ができた。</li> <li>・中高の企画課を中心として、中高一貫の教育課程の編成など、本校独自の中高一貫教育のシステム構築について検討する体制が充実した。</li> <li>・中学校で一緒に活動してきた生徒が高校へ進学し、生徒へのアンケートで、「高校生と学校生活や行事を共にすることは、自分にとってプラスになっている」と答えた者も多くいる。</li> <li>・開校から6年が経過し、中学校の教育活動を検証して修正すべき点を洗い出し改善する必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・最大のメリットは、毎日すぐそばにあこがれの高校生がいることだと思っています。きっと先輩との出会いで、様々な悩みや夢を語り合っ前へ向いて進んでいる生徒が多くいると思っています。お願ひは、恵まれた環境を存分に生かしていただきたいと思ひます。</li> <li>・富東祭・生徒総会・防災訓練などを中高合同で実施していることは、有意義であり中高一貫校しかなしえないことである。また、高校の教員の授業を受講できることもメリットである。実践している活動を今後も継続し、生徒自らの学力の向上へと繋げていけるような取組を幅広く実践してほしい。</li> </ul>	<p>＜課題＞</p> <p>中高一貫教育校としての6年間を見通した教育活動や組織体制をさらに充実させる必要がある。</p> <p>＜方策＞</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教科学習を中心とした中高6年間のカリキュラム等について、企画課を中心に、検討を継続する。</li> <li>○内進生と外進生の状況を様々な側面から分析し、中学校から高校への接続のあり方について検証する。</li> <li>○中高教員の連携による効果的なTTや習熟度別等の指導をさらに充実させる。</li> <li>○他校の実践例を研究し、本校の取組に生かす。</li> <li>○中高の生徒が合同で取り組む活動を充実させる。</li> </ul>
		<p><b>活動計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教科学習を中心とした中高6年間のカリキュラム等について、中高合同の検討委員会等を開催して検討する。</li> <li>・(中・高)の企画課を新設し、中学校から高校への接続について本校の教育目標や生徒の実態に即した「富岡東スタイル」を確立する。</li> <li>・中高教員の連携による効果的なTTや習熟度別等の指導を充実させる。</li> <li>・他校の実践例を研究し、本校の取組に生かす。</li> <li>・中高の生徒が合同で取り組む活動をさらに充実させる。</li> <li>・中高相互の授業見学、研究授業及び研究協議を行う。</li> <li>・中高合同の学力向上検討委員会等において、生徒の学力向上を図る授業の展開を検討する。</li> </ul>	<p><b>活動計画による実施状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富東祭(文化祭・体育祭)・生徒総会・防災訓練等の学校行事を中高合同で実施した。</li> <li>・音楽部・書道部・美術部などの文化部では、中高合同の活動が定着した。運動部では、体力・技能の差に応じて、可能な範囲で活動しており、高校の部活動への移行ができつつある部もある。</li> <li>・英語・数学・体育で高校の教員と中学校の教員が合同で中学校の授業を実施し、その授業を通して高校の教員が中学生の学習内容や到達度を具体的に把握することができた。</li> <li>・中学3年生の数学・英語で習熟度別授業を実施し、中高の教員が連携して学習指導に取り組んでいる。</li> <li>・(中・高)企画課を中心に、中高一貫教育推進検討会を開催など、中高合同で教育課程や学力向上に関する取り組みを検討する体制が充実した。</li> </ul>			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔5〕 特別活動の充実と「さわやかで活力あふれる富東」の精神の高揚	<ul style="list-style-type: none"> <li>* あいさつ、マナー等の基本的生活習慣の定着</li> <li>* 食育の推進と心身ともに健全な生徒の育成</li> <li>* たくましく生きる精神力と、心豊かな人間性の育成</li> <li>* 安全教育や防災教育の徹底と事故防止への取組の強化</li> </ul>	<p><b>評価指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○遅刻ゼロの生徒90%以上。</li> <li>○あいさつがきちんとできる生徒90%以上</li> <li>○部活動の参加率95%以上。</li> <li>○市レベル以上の各種大会・コンクール等での入賞が、年間延べ30人以上</li> <li>○食に対する意識が高まった生徒80%以上</li> <li>○登下校時の交通事故ゼロ。</li> <li>○HR担任と教科担任は、始業のチャイムを教室で聞く。</li> </ul>	<p><b>評価指標による達成度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・〈生徒アンケート〉学校に来ることが楽しい84.8%（昨年度比0.9ポイントDW）</li> <li>・〈生徒アンケート〉遅刻ゼロの生徒97.0%（昨年度比2.2ポイントUP）</li> <li>・〈生徒アンケート〉あいさつをきちんとしている生徒92.0%（昨年度比3.2ポイントUP）</li> <li>・部活動全員参加</li> <li>・男子ソフトテニス部が県中学校総体で団体優勝した。また、理数研究部が日本学生科学体験で、昨年度に引き続き県知事賞を受賞するなど、多数の受賞・入賞があった。</li> <li>・〈生徒アンケート〉朝食をきちんと食べて登校している生徒95.1%（0.3ポイントUP）</li> <li>・登下校時の交通事故がゼロであった</li> </ul>	<p><b>総合評価</b> (評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">A</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・アンケートで、「学校に来ることが楽しい」と回答した生徒の割合が、昨年度と比較してわずかではあるが低下しており課題である。欠席がちだったが登校できるようになった生徒もいるものの、欠席がちな生徒もある。</li> <li>・基本的な生活習慣や規律正しい学校生活に関しては、目標をおおむね達成することができた。校則やあいさつに関するアンケート結果も昨年度と比較して向上が見られた。</li> <li>・生徒同士、あるいは生徒と教師の人間関係も良好で、学校生活への高い満足度につながっていると考えられる。</li> <li>・部活動では、ソフトテニス部が県総体で優勝するなど、これまでにない成果が見られ、運動部・文化部ともに積極的に活動している。</li> </ul>	<p>・A評価に学校の活力を感じます。まず遅刻ゼロの生徒97%で、それがわかります。ただ、やはり欠席がちな生徒のことは気になります。たぶん他校に比べれば少ない人数とは思いますが、どうか徹底して個に対応する東中学校であってほしいと願っています。その生徒の一生が左右されます。</p> <p>・学校生活と家庭生活は連動しているため、双方が充実していないと少しずつ生活リズムがおかしくなる。あいさつや服装は、基本となる習慣であり重要なことである。また、部活動を通じて先輩や後輩という関係もあり、人間関係の幅が広がる。今後も学校の校風の良質を目指し活動していただきたい。</p>	<p>&lt;課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○部活動における施設・設備や指導体制をさらに整備する。また、自らの安全と公衆道徳に対する生徒の意識を高める必要がある。</li> </ul> <p>&lt;方策&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○教育相談等の体制を改善し、欠席がちな生徒への対応を充実させる。</li> <li>○高校の部活動との一体的な活動や連携をさらに充実させるとともに中学生の部活動の活動場所を確保する。</li> <li>○生活記録を活用し、個々の生徒の悩みや学級の問題点を発見し、早期の解決を図る。</li> <li>○自転車通学のマナーを向上させる取り組みを進めるとともに、通学路の交通立哨などの安全指導を充実させる。</li> </ul>
		<p><b>活動計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつの励行や清掃活動への主体的取り組みを促す。</li> <li>・生活ノートを活用し、個々の生徒の悩みや学級の問題点を発見し、早期の解決を図る。</li> <li>・自転車通学のマナーを向上させる取り組みを進めるとともに、通学路の交通立哨などの安全指導を充実させる。</li> <li>・ホームルーム活動、全校・学年別集会を通して、服装・頭髪・マナーについての自覚を高める。</li> <li>・定期的に生活実態調査を実施する。</li> <li>・高校の部活動との一体的な活動や連携を充実させ、活動環境をさらに整備する。</li> <li>・食育通信の発行や給食試食会の開催等、保護者と連携した食育を推進する。</li> </ul>	<p><b>活動計画による実施状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・富東生らしいさわやかなあいさつが定着した。清掃活動にもしっかり取り組んでいる。</li> <li>・始業のチャイムと同時に授業を始める習慣は引き続き定着している。</li> <li>・生徒会活動での服装チェックや、定期的実施している昇降口指導により、「制服を美しく着こなす」意識が定着している。</li> <li>・定期テストの実施に合わせて生活実態調査を実施し、生活習慣の改善指導に役立てている。</li> <li>・部活動の実施状況について検討した結果バスケットボール部の活動を休止することとした</li> <li>・給食だよりを毎月発行するなど、保護者と連携して食育を推進できた。ただ、給食への異物混入(毛髪・爪・虫)が複数回あった。</li> <li>・街頭交通指導を定期的実施した。</li> </ul>			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策	
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見		
〔6〕 人権と環境に対する高い意識を育てる教育を実践する。	* 生徒一人ひとりの人権尊重の意識を高め、人権感覚をみがくために、教育活動全般をととした人権教育の取組を充実させる。  * 校舎内外の環境美化に努めるとともに、環境問題に対する理解を深め実践力を育てる。	<p><b>評価指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○人権意見発表会や人権教育講演会等を実施する。</li> <li>○教職員人権問題研修会を実施する。</li> <li>○保護者への人権啓発活動を積極的に実施する。</li> <li>○生徒の社会貢献への意識を高める。</li> <li>○全校的なボランティア活動を実施する。</li> <li>○環境問題を意識した生活ができている生徒90%以上。</li> </ul>	<p><b>評価指標による達成度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各学級の代表による人権意見発表会を開催した。 B</li> <li>・教職員人権問題研修会を実施した。 B</li> <li>・PTA人権教育研修会を中高合同で開催した。PTA活動や学校行事、各種配付物を通じて保護者への人権啓発を行った。 B</li> <li>・本年度よりESD(持続可能な社会をめざした環境教育)を本格実施し徳島県環境学習フォーラムで学習成果を発表するなど、環境学習の取組がさらに進展した。 B</li> </ul>	<p><b>総合評価</b> (評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;"><b>B</b></p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒アンケートの結果、「相手の立場に立った言動ができている」生徒が89.8%(昨年度比2.7ポイントUP)であり、日々の学校生活を通じて、さらに人権意識を高揚させた。</li> <li>・人権意見発表会では、今年度も生徒の高い人権意識を感じ取ることができた。</li> <li>・環境教育では、第3学年が昨年度に引き続いて、とくしま環境学習フォーラムで研究成果を発表するなど、積極的な取組ができた。</li> <li>・日々の取り組みとして、節電節水を徹底し、廃油の回収活動等についてより積極的に取り組む必要がある。</li> <li>・PTAの人権啓発活動は、今年度、中高合同で学校での人権問題講演会を開催したところ、多数の参加者があり、「有意義であっ」との感想も寄せられた。</li> </ul>	<p>・自分の個性や夢を認めてもらえることで、人は他者を思いやることができると思っています。人権とは難しいことではなく、自分自身の中にある優しさに気づき育てることが一生の仕事だと思っています。どのような立場になろうとも、人は自分の尊厳が認められ、自分の思いを受け止めてもらえる社会の実現を目指しています。教育課程全般での取組に感謝しています。</p> <p>・人権問題や環境問題も、それぞれの社会問題であり、世界的には国際問題である。まずは身近なところから問題点を共有し、それぞれの立場で向上に努める。きっかけとしてそれぞれの分野の専門家や有識者の生の声を聴くのも大切である。</p>	<p>&lt;課題&gt; 人権と環境を柱とした教育活動の推進体制と指導計画をいっそう充実させ、「社会貢献プロジェクト」を着実に実践する必要がある。</p> <p>&lt;方策&gt; ○「社会貢献」の視点を重視した人権・環境教育をいっそう充実させる。</p> <p>○人権・環境について、保護者も参加して共に学ぶ機会を増やす。</p> <p>○学年だよりやホームページ等を通じて、学校での人権・環境教育の学習内容を、保護者に向けて発信する機会を増やす。</p> <p>○市P連の活動等を通して人権・環境教育における地域との連携をいっそう深める。</p> <p>○体験的な学習活動を充実させるなど、人権教育の学習方法を工夫改善する。</p>
		<p><b>活動計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「社会貢献」の視点を重視した人権・環境教育をいっそう充実させる。</li> <li>・人権・環境について、保護者も参加して共に学ぶ機会を増やす。</li> <li>・学年だよりやホームページ等を通じて、学校での人権・環境教育の学習内容を、保護者に向けて発信する機会を増やす。</li> <li>・市P連の活動等を通して人権・環境教育における地域との連携をいっそう深める。</li> <li>・資源ゴミの分別回収や廃油の回収など、現在の取組をいっそう充実させる。</li> <li>・体験的な学習活動を充実させるなど、人権教育の学習方法を工夫改善する。</li> <li>・PTA人権教育部の活動を工夫する。</li> </ul>	<p><b>活動計画による実施状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・社会貢献プロジェクトの一環として、3年生が「持続可能な社会の構築」を目指したまちづくりについて研究し、その成果をとくしま環境学習フォーラム等で発表した。</li> <li>・「阿南中学校区人権教育研究会」において本校の全学年が、人権問題学習の公開授業を実施し、阿南中学校区内の幼保小中学校の教員や保護者参加のもとで、さまざまな人権問題について学習した。</li> <li>・1学期には人権問題意識調査を実施し、今年度の人権学習を推進するための基礎資料とした。</li> <li>・2学期に中高PTAによる人権啓発研修会を学校で開催した。また、阿南市人権啓発講演会に、PTA人権教育部から年間5回参加した。</li> <li>・「富東人権新聞」を7回発行し、中学生からの提言・意見も随時掲載した。</li> <li>・節電と徹底や、プリント類の裏面利用、封筒類の再利用など、省資源活動が定着した。</li> <li>・資源ゴミの分別収集は定着しているが、廃油の回収活動は回収量が低下している。</li> </ul>			

自己評価				学校関係者評価	次年度への課題と今後の改善方策
重点目標	努力点	評価指標・活動計画	評価	学校関係者の意見	
〔7〕 組織力で迅速かつ有機的に動く教職員集団の構築	<ul style="list-style-type: none"> <li>* 個々の教師に頼ることなく、「報告・連絡・相談」の意識を徹底</li> <li>* 生徒の状況等について教職員が情報を共有する環境の整備</li> <li>* 教職員が自主的に研修に参加し、資質の向上のために自己研鑽に励む意識の高揚</li> <li>* カウンセリングに関する専門的な知識やスキルの会得と、協働する組織の構築</li> </ul>	<p><b>評価指標</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 服務規律に関する研修会を開く。</li> <li>○ コンプライアンス、情報セキュリティ等の研修を充実させる。</li> <li>○ 不祥事を未然に防止する、風とおしのよい職場環境を作る。</li> </ul>	<p><b>評価指標による達成度</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員アンケートの結果から、教職員の意思疎通は適切に行われていることが確認できた。 B</li> <li>・ 生徒の状況について教職員の共通理解のもとで教育活動を実施できた。 B</li> <li>・ コンプライアンスに関するアンケート調査の結果から、コンプライアンス意識が徹底できている状況が確認できた。 B</li> <li>・ 情報セキュリティに関するセルフチェックの結果から、昨年度の状況からの改善が見られた。 B</li> </ul>	<p><b>総合評価</b> (評定)</p> <p style="text-align: center; font-size: 2em;">B</p> <p>(所見)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員間のコミュニケーションは十分に図られており、「報告・連絡・相談」も適切に行われている。</li> <li>・ 三者面談や生徒面接等で知り得た情報を教職員が共有し、指導に活かすことができた。</li> <li>・ 教職員のコンプライアンス意識は高いことが確認できた。特に自動車を運転する際の交通違反・事故には十分に気をつけるよう努めている。</li> <li>・ 情報セキュリティについては、クリアデスクの実行やウイルス対策など、これまでの調査で不十分だった点が改善された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 生徒たちが一番好きな学校とは？先生方が仲良く、職員室での先生方の笑い声が教室まで聞こえてくる学校だと思っています。もちろんそんな笑顔の教職員集団の学校では、いじめも不登校も激減すると思っています。どうか評価がAとなりますように。</li> <li>・ 今の社会は目まぐるしい速さで変化している。それに合った教育をするのは大変困難なことであるが、生徒の心のケアから学力の向上まで多種多様にわたっている。それぞれの分野や立場で細かく分担できればもっと迅速に対応できると考える。なお、教員自身の心身のケアも必要でないか。</li> </ul>
		<p><b>活動計画</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 管理職を中心として、教職員間の「報・連・相」をシステムとして徹底するとともに、コミュニケーションのいっそうの充実に努め、風通しの良い職員室・教職員体制づくりを推進する。</li> <li>・ コンプライアンスや情報セキュリティ、また、カウンセリング等の研修を充実させ、今日的な問題に適切かつ迅速に、組織として対応できるようにする。</li> <li>・ 携帯電話等のネットリテラシーについて、子どもたちがIT社会でより良く生きる力を身につけ、トラブルに巻き込まれることがないよう、情報教育体制を整える。</li> </ul>	<p><b>活動計画による実施状況</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 教職員間のコミュニケーションの機会を大切にし、風とおしのよい職場環境づくりに努めた。</li> <li>・ 生徒の健康状態、家庭状況、人間関係、学習状況などについて、担任だけでなく、学年組織や、養護教諭等が共通理解を深め、管理職や教育相談との連絡や相談も行いながら助言や支援を行った。</li> <li>・ 職員朝会、中学校職員会、学年部会などの機会をとらえて、コンプライアンス意識の徹底を図った。</li> <li>・ 情報セキュリティに関するセルフチェックの実施等を生かして、遵守事項の確認と意識の向上を図った。</li> <li>・ 警察等と連携し、外部講師を招いて携帯電話の正しい使い方など、ネット社会への適応力を高める取り組みを実施した。</li> </ul>		

